



## 前期・期末考査が始まりました。

～まずは4日間しっかり受験しましょう。～

### 1 唐松地区高校合同茶会が開催されました。

9月14日(日)に唐津の唐津市ふるさと会館アルピノで「第29回唐松地区高等学校合同茶会」が開催されました。本校茶道部の部員も参加し、日頃の練習の成果を披露し、見事なお点前でした。

### 2 秋の新人戦も各地で行われました。

総体が終わり、1・2年生が中心となった新チームの夏休みの練習の成果を試す新人戦が県内各地で行われました。15日(日)に女子バスケットボールの試合(対唐津南)を、16日(月)に野球部の試合(对新嬉野高校)を観戦してきました。いずれも少ないメンバーでの奮闘でしたが、惜しくも敗れました。他の部活動も今後様々な大会が行われます。健闘を祈ります。



### 3 今日の一言・・・いわさきちひろと山口良治(福井県出身)の言葉です。

○人間はあさはかなもので、身にふりかかってこなければ、なかなかその悲しみはわからない。若い、苦しみに満ちた人たちよ。若いうちに苦しいことがたくさんあったということは同じような苦しみに堪えている人々にどんなにか胸せまる愛情がもてることだろう。  
○大人というものは、どんなに苦勞が多くても、自分の方から、人を愛していける人間に、なることなんだと思います



【解説】日本の絵本作家・いわさきちひろの言葉です。そのやわらかなタッチの挿絵と優しい言葉の数々で多くのファンに親しまれています。青春時代に戦争を体験したいわさきちひろは、「世界中のこども みんなに 平和としあわせを」ということばを残しています。ちひろが描いた子どもや花は、今もいのちの輝き、平和の大切さを語り続けています。

【いわさきちひろについて】いわさき ちひろは、子供の水彩画に代表される日本の画家、絵本作家。福井県武生生まれ。生涯「子どもの幸せと平和」をテーマとして描き続けました。初期作品には、岩崎ちひろ、岩崎千尋、イワサキヒロ名義で発表されたものが存在します。昭和49年55歳の若さでこの世を去りますが、彼女の残した絵の数々は時代を超えて愛されています。(参考:「Wikipedia」より)

○人生のMVPを持って生きて行く。 M(mission)使命感、責任感 V(vision)想像力、直感力 P(passion)情熱、熱き心  
この3つを持っていれば、人生のハードルは乗り越えられる。  
○「教える」ということは「ああせい、こうせい」ということではない。「どんな夢を語ってやれるか」「どんな希望に燃えた子供にしてやれるか」が大事なことだ。彼らの夢とともに生きてやりたい。

【解説】公立高校で無名という決して恵まれてはいない環境からの全国制覇と、ラグビー部生徒への体当たりの指導が多く反響を呼び、1984年のテレビドラマ『スクール☆ウォーズ』の主人公の滝沢賢治のモデルとなったラグビー部監督の言葉。平尾誠二や大八木淳史など多くの日本代表選手を育てた。その熱い情熱は教え子たちによって引き継がれている。

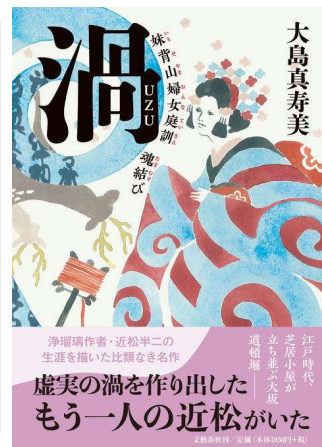
【山口良治について】1943年福井県生まれ。日本体育大学卒。1967年より長年にわたり日本代表選手で名キッカーとして活躍。(日本代表 CAP 13) 1981年、高校全国ラグビー大会において、全国的に無名だった伏見工業高校を率いて初優勝。監督就任後わずか6年で日本一になった。愛称は「泣き虫先生」で、映画・TVドラマ『スクール☆ウォーズ』のモデルにもなる。元、京都市立伏見工業高等学校ラグビー部総監督、京都市スポーツ政策顧問、京都アクアリーナ館長、浜松大学教授、環太平洋大学学監。著書に『信は力なり』(旬報社)、『17歳を語る』(アートヴィレッジ)、『プロジェクトX ザ・マン』(日本放送出版協会)、『気づかせて動かす』(PHP 研究所)、『生きる力を伝えたい』(幻冬舎)など多数。(参考:「Wikipedia」より)



#### 4 今日の一冊・・・今回の一冊は、大島真寿美の『渦 妹背山婦女庭訓 魂結び』です。

江戸時代、芝居小屋が立ち並ぶ大坂・道頓堀。大阪の儒学者・穂積以貫の次男として生まれた成章（のちの半二）。末楽しみな賢い子供だったが、浄瑠璃好きの父に手をひかれて、竹本座に通い出してから、浄瑠璃の魅力に取り付かれる。父からもらった近松門左衛門の硯に導かれるように物書きの世界に入ったが、弟弟子に先を越され、人形遣いからは何度も書き直しをさせられ、それでも書かずにはおられなかった……。著者の長年のテーマ「物語はどこから生まれてくるのか」が、義太夫の如き「語り」にのって、見事に結晶した奇蹟の芸術小説。

(参考：「BOOK」データベースより)



【解説】第161回直木賞を受賞した作品です。人形浄瑠璃作者・近松半二の生涯を描いた芸術小説です。半二は、人形浄瑠璃の竹本座と関係の深かった父・穂積以貫の次男として大坂に生まれ、父の勧めで、二代目竹田出雲に入門し、竹本座の座付作者となり、近松門左衛門に私淑して近松半二を名乗ります。その半二が39歳で立作者となり『役行者大峰桜』や『奥州安達原』、『本朝廿四孝』、『傾城阿波の鳴門』など、現在も歌舞伎・文楽でしばしば上演される名作群を書き、並木宗輔に続く竹本座の全盛期を築いていく生涯が、父・母との微妙な関係も織り交ぜながら描かれています。

【作者・大島真寿美について】愛知県名古屋出身。高校在学中より脚本の執筆を開始。1985年より劇団「垂直分布」主宰、脚本・演出を担当。その後小説家へ転身し、高校在学中の講演会で卒業生の山田正紀から受けた助言に従って新人賞への応募を開始。1992年「春の手品師」で第74回文学界新人賞受賞。同年すばる文学賞最終候補となった『宙の家』が刊行される。2014年『あなたの本当の人生は』で第152回直木三十五賞候補。2019年、初めて時代小説に挑戦した『渦 妹背山婦女庭訓 魂結び』で第161回直木三十五賞受賞。(参考：「Wikipedia」より)

#### 5 日本全県味めぐり・・・第22回は福井県です。

福井県のグルメと言えば、「越前ガニ」「越前おろしそば」「焼き鯖寿司」「ソースカツ丼」を挙げたい。まず「越前ガニ」とは、北陸でとれるオスのズワイガニのことで日本を代表するカニの一種。山陰では松葉ガニと名を変える。福井県沖は寒流と暖流がぶつかる急深で、厳しい環境で育つ越前ガニは身が引き締まり、濃厚な旨みを持つ。その濃い味わいは出汁の種類を選ばず鍋の種類は様々。ぎっしりとつままった白い身に、鍋で火を通すことより出汁の旨みを吸収し、上品な甘みが際引き立つ。カニのエキスを余すことなく食べられる、シメの雑炊は至福のおいしさ。次に「越前おろしそば」。大根おろしとだしをたっぷり使って食すそば。江戸時代に時の領主が非常食としてそばの栽培を命じ、そばに越前産の大根をおろしたものとだしをかける食べ方が推奨されたのが起源とされる。県内にはおろしそばを食べられるお店が多く存在。そして「焼き鯖寿司」。福井名物”浜焼きサバ”を酢飯にのせた”サバ棒寿司”をうみ出したのは、現地の飲食店経営者。地元の名物料理を作りたいという思いから、大好きな浜焼きサバと寿司を合体させることを考案。現在では、地元飲食店でも定番メニューとなるほどにまで地域に根付き、脂がのった浜焼きサバと地元産コシヒカリの酢飯を組み合わせ、駅弁でも売られている。最後に「ソースカツ丼」。福井でカツ丼と言えば、ソースで食べるソースカツ丼です。揚げたカツを熱々のうちにウスターソースベースの秘伝のタレにつけ、タレをまぶした熱いご飯の上にのせただけのものです。箸で切れるほど柔らかいカツと、その香りと甘味、酸味が醸すまろやかな口当たりは、一度食べたら忘れられない味です。元祖の店「ヨーロッパ軒」がおススメ。(参考：「郷土料理ものがたり」より)



【羽二重餅】(松岡軒) 羽二重餅(はぶたえもち)は餅粉を蒸し、砂糖・水飴を加えて練り上げた、福井県の和菓子である。福井県では羽二重織りが盛んであり、よく生産されたため、羽二重にちなんで1847年錦梅堂にて作られた。食感は非常に柔らかい。羽二重餅発祥の老舗「松岡軒」。明治30(1897)年から続く羽二重餅発祥のお店として知られています。



【水羊かん】(えがわ) 昭和25年に水羊かん専門店として始まった老舗が「えがわ」です。第22回全国菓子大博覧会・名誉総裁賞を受賞している本格派で、沖縄産の黒砂糖を隠し味にしているので、あっさりとしている中にもコクのある甘さがあり、クセになってしまう美味しさです。夏ではなく冬に食べるのが福井流で、冬季限定販売です。

#### 6 保護者の皆様へ・・・9/20(金)18:00から「指定校推薦通知会」を開催。

本日から1・2年生は、前期の期末考査が始まりました。まずはこの4日間、遅刻・欠席することなく受験できますようにご家庭でのサポートよろしくお願ひします。なお、9/19(木)の「指定校推薦会議」の結果を受けて、3年生で指定校推薦を受験することになったご家庭を対象に、9/20(金)に「指定校推薦通知会」を開催します。